

第1回 貝塚市健康かいつか21計画策定委員会 会議録・議事録要旨

1. 日時

令和6年8月22日（木）午後1時30分開始

2. 場所

貝塚市立保健センター3階大会議室

3. 出席者

<委員>

貝塚市医師会 会長

かわさき やすひろ
川崎 康寛 委員

貝塚市歯科医師会 会長

はやし たくや
林 卓也 委員

貝塚市薬剤師会 会長

にしむら たくや
西村 卓也 委員

大阪公立大学 教授

こうの あゆみ 委員
河野

貝塚市健康づくり推進委員会 会長

ただの えみこ 委員
忠野 恵美子

貝塚市食生活改善推進協議会 副会長

あかがわ こ
赤川 さち子 委員

貝塚市副市長

かわの まさこ
河野 雅子 委員

貝塚市健康福祉部長

とうすじ ひろし
塔筋 寛 委員

貝塚市教育部参与

あらき のりお
荒木 規夫 委員

<事務局>

健康推進課課長 梅野 由美

健康推進課課長補佐 岸本 彌和子

健康推進課主幹 森野 雅之

健康推進課主査 海江田 佳寿美

健康推進課副主査 松本 裕梨

4. 欠席者

大阪府岸和田保健所長

みやぞの まさや
宮園 将哉 委員

町会連合会 副会長

はたなか きんや
畑中 欽也 委員

貝塚市子ども部長

にしさか かずたか
西阪 和隆 委員

5. 配付資料

- ・ 本日の次第
- ・ 委員会名簿
- ・ 配席図

- ・貝塚市健康かいつか 21 計画策定委員会規則
- ・資料（議題 3 関係）第 4 期健康かいつか 21 策定について
- ・資料（議題 4 関係）事前配布資料（市民アンケート実施について）に係るご意見等について
- ・市民アンケート案（成人、小・中学生、幼児用の 3 種類）

6. 議事録要旨

事務局：委員、事務局紹介。資料確認。

欠席 3 名、出席 9 名。

貝塚市健康かいつか 21 計画策定委員会規則（平成 29 年規則第 34 号）（以下「規則」という。）第 6 条第 2 項の規定により、委員数の半数以上出席のため、会議成立。

<議題 1 役員選出>

規則第 5 条第 2 項の規定により、会長及び副会長選出は、委員の互選。選出方法について事務局一任の声が上がり、委員の異議なし。

事務局：事務局案として、会長を川崎委員、副会長を河野あゆみ委員で伺い。

委員：異議なし。

規則第 6 条第 1 項により会長が議長を務めるため、以降、川崎議長が会議を進行。

<議題 2 会議の公開・非公開について>

事務局：「審議会等委員の市民公募及び会議の公開に関する指針」の規定により、審議会等の会議は、原則、公開することとされている。本指針では、最初に開催される会議において、会議の公開・非公開・一部公開を決定することとされていますので、本委員会の会議を公開とすることを事務局より提案。

委員：公開で異議なし。

傍聴希望者 1 名入室

<議題 3 計画の策定目的及びスケジュールについて>

事務局：国は「第 3 次健康日本 21」を令和 6 年から 17 年度の 12 年間を計画期間として策定。大阪府は令和 6 年度「大阪府第 4 次健康増進計画」及び「食育推進計画」を策定。

「第 4 期健康かいつか 21」は、本市は男女とも健康寿命が短いことからその延伸を目標とし、壮年期主に 40～64 歳を対象とした生活習慣病予防対策に力を入れた計画策定を行う。「自殺対策計画」、「食育推進計画」と一体的に策定するが、「自殺対策計画」の計画期間が 5 年であることを考慮し、令和 12 年を目途に中間評価を実施する。

市民へのアンケートを実施後、計画素案を年度内に作成。令和 7 年 4 月に第 2 回策定委員会を開催し、素案内容について諮る。6 月に市民意見交換会・パブリックコメント実施、8 月に第 3 回策定委員会、10 月は第 4 回策定委員会を予備で設定。12 月に議会報告予定。

委員から特に意見なし。

事務局：補足説明。資料に「第4次大阪府健康増進計画」などの計画、概要を添付している。これらの基本目標、基本方針、具体的な取り組みを勘案しかつ貝塚市の課題を盛り込んだ計画を予定している。

<議題4 市民アンケート実施内容について>

市民アンケートについて、今回の本文に加えアンケート調査の趣旨や記入方法を記載した送付文をつける。アンケートは、3種類のアンケートを実施。

20歳以上の市民アンケートは2,000件を予定、健康増進、自殺、食育、の3計画に必要となる。大阪府の健康づくり実態調査調査票と「第3期健康かいつか21」の際に調査した「自殺対策計画」に関連する項目を参考に案を作成。

小・中学生のアンケートは、小学5年生、中学2年生の市民を対象に、幼児のアンケートと合わせて約1,500件を予定。主に「食育推進計画」策定の際に必要となる。大阪府の食育計画をもとに食事時間や栄養バランスなどの食生活状況、家庭における食を取り巻く環境、食文化や作法の伝承に関することなどを調査。策定委員会前に配付したアンケートから、各委員からいただいた意見をもとに修正したものを本日配付。意見の詳細は資料（議題4関係）を参照。

20歳以上アンケート、設問21の野菜を1日に何皿食べるかについて、飲酒習慣の設問と同様選択肢で回答できるよう修正。設問23の運動習慣を問う質問について、運動の定義について説明文を追記。

小中学生のアンケート、設問1は年齢を問うていたが、学年を限定して調査するため、年齢記載式ではなく学年選択式に修正。設問16「貝塚市の特産品を知っていますか」は、代表的な水なすをあげていたが、特産物の種類を追加した。

幼児のアンケート、対象者を5歳児に限定しているため年齢欄削除。設問8（修正後設問7）については質問内容の解釈がばらつく聞き方だったため修正。家庭での食事が楽しいかどうかを確認する意図があるため、子どもだけでなく保護者も含めた回答を得られるような内容にしている。

荒木委員：小中学生へのアンケートについて確認。小中学校では極力性別を聞くことはやめている。だが必要性があれば聞くので、男女を聞くことで男女での違いを分析するようなことがあるのか確認したい。

事務局：中学生では女性と比較し、男性の朝食欠食率が高いと全国的に言われており、性差が出てくる年齢なので、分析結果に違いが出ると考えている。

荒木委員：性差による分析をする予定であり、聞く根拠があるということで了解。

また、食生活についての問 13「勉強」という表現は学校現場では使わず「学習」と言っているので、支障がなければ変更してほしい。

事務局：「学習」に変更する。

西村委員：小中学生へのアンケートの問 16 特産物の設問について、聞き方として知っているものに丸をつけるという方が楽しんで答えてもらえるかもしれない。例以外にも知っているものがあるかもしれないので、(回答項目が) やや曖昧だと感じる。

事務局：どういうものを知っているかということよりも、伝承される風土があるかを聞きたい。特産物を並べてアンケートに答えることで食育にもつながるのではとの意見もあったが、どの特産物が知られているかわからないという情報収集は今回の調査では必要なく、代表的なものを知っていてそれを食べたことがあるのかという「行為」について調査したいと思い、設定した。

荒木委員：今の回答項目だと「水なすは食べたことはある」が 1 なのか、水なすと三つ葉は知っているが食べたことは無い等個別に異なるため、子供は何と答えていいかわからないとなりそう。例えば 1 つ以上知っている、2 つ以上知っている、どれも知らない、などのように明確になるようにしたほうが良いと思う。

事務局：この回答項目については事務局内でも複数の意見が出た。回答にバリエーションがでてくるので、当初は水なす一品に絞っていた。知っている知っていないも問いたい要素なので、明確に答えられるように事務局で再度案を検討したい。

川崎議長：小中学生のアンケートで、食事時間の楽しい・楽しくないは個々によって違うと思うが、アンケートの内容が啓発を目的とした「健康に気を付けましょう」というようなもの、例えば「健康に気を付けていますか」と書かれると「気を付けないといけないんだろうな」という雰囲気を漂わせているものがある。問 13 や問 15 など「大切だと思う」と先生に聞かれると思っていなくてもつけるかもしれない。そういう設問がほかにもあるが、それがあっても良いのかもしれないし、そもそもアンケートを取る意味があるのか。そのあたり事務局内での意見はいかがか。

事務局：食育に関してどの程度皆さんが知っているのか、理解しているのか。「第 3 期健康かいつか 21」の時は「食育という言葉を知っているか」という設問だった。大阪府の評価では、そこについては目標達成したとされている。そのため食育を知っているか知っていないかを問うことは今回しない。だがそれに即した内容でなんらか問うことはできないかと思い、今回の設問を設定した。川崎議長ご指摘の通り、誘導的な質問になっているところは

あるかもしれない。他の表現で食育についてはかる、物差しになるような聞き方の案があれば提案してもらえるとありがたい。

川崎議長：「自殺対策計画」について若年層の自殺が増えている（中高生）について、いじめがあるなど中学の現場でも対策は取っていると思うが、今回の小・中学生アンケートに入れなくていいのか、あくまで食育の質問だけでよいのか。

事務局：今回のアンケートについて教育委員会と相談した結果、デリケートな内容であるため、今回は（自殺対策計画に関する設問項目は）大人に限ることとした。

河野あゆみ副会長：アンケートの配付・配信方法はどのようにするのか。

事務局：20 歳以上のアンケートについては市で無作為抽出して郵送予定。二次元コードからネットワーク環境で回答または紙で回答できるようにする。小中学生へのアンケートについては、教育委員会の協力を得て今後具体的にどう進めるか検討する。幼児（5 歳児）については保育園・幼稚園に通園している幼児が大半と聞いているため、市の担当部局と協力しながら郵送か園での配付になるのか検討中。

河野あゆみ副会長：大阪府の計画に ICT の等の文言があるため、二次元コード（での回答）の数がどのくらいなのか、実数を知ると、今後 ICT を使った健康づくりが増えてきており、市でも（他課かもしれないが）健康マイレージなどもしていると聞くので、検討材料になるのではないか。

荒木委員：小中学生のアンケート回答方法について教育委員会としては、タブレット端末での回答を想定している。また、前回の「第 3 期健康かいつか 21」との比較をするのであれば質問・回答項目を変えない方がよいようにも思うが、前との比較が不要ということで、選択として変える、または、前との比較という面で残したいのであれば変えない、ということを考える必要がある。また、教育委員会でアンケートをするときは 4 項立て（4 件法）にする。どちらともいえないという回答は有意な分析に使えないので、真ん中にならないようにする。今回のアンケートは 3 つ立てのものと 4 つ立てのものがある。「第 3 期健康かいつか 21」の項目と合わせた方が比較できると思うが、どのように考えているか。

事務局：「第 3 期健康かいつか 21」の時は子供に対してのアンケートはなかった。前回のアンケートが「第 2 期健康かいつか 21」で 10 年以上前になる。その頃と世の中の状況も変わっているので、そことの比較にはこだわらないと考えている。回答が 3 項目、4 項目とバラつきがあることについては、再度検討するが、大阪府の健康づくり実態調査票をベースに作成している。大阪府調査との比較も必要と考えているので、項目によっては合わせたいと考

えている。

川崎議長：アンケートの配付方法について、（公立中）学校ですということだが、私立中学校に通う人が多く、生活が乱れているとまでは言わないが、朝早く起きる必要がある、塾に行っていて寝る時間が遅いなど、生活スタイルに特徴のある人が多いと思う。小学校から私立中学校に行く人が全くアンケートから漏れてしまうのは、市として計画策定するに当たりよくないと思う。何割ぐらい私立中学に進学しているのか。小6生と新中学入学生と比べると一目瞭然だと思うがデータではどうか。学校保健の現場では、歯科のデータで小6までと中1とでガタッと減る。母数が減り、1000人のうち10人20人ではなく100人変わる、1割減るとなると、本当に問題が起こってきそうな中2をカバーできないということが懸念される。そのあたりは検討しているか。教育委員会は私立学校だから関係ないかもしれないが、市としてはそういうことではないと思う。

荒木委員：教育委員会としては、私立の学校の子に何か聞くということとはできない。市で他のアンケート調査予定があるが、その会議では担当課がホームページ上にアンケートを掲示して私立の子にはそれで答えてほしい、という方法を検討すると聞いている。私立中学進学数について正確な数字は今把握していない。学校によって変わってくると思う。

河野雅子委員：現在市の総合計画の策定を行っているが、その中で実施する子ども向けのアンケートでも同様の議論があった。広報紙などでアンケートを実施しますという案内のなかで、私学のかたもアンケートに参加いただけるという周知の内容を加えることで、すべての対象が興味を持って答えてもらうのは難しいかもしれないが、除外せずに参加できる状況を作って実施することはできると思う。

他には委員から意見なし。事務局からも補足なし。審議終了。

事務局：今日の意見を受け、後日、アンケートの修正案を文書配付予定。